

(こくさいか山口 2007年1→3月号掲載記事)

## ～大きいことは良いことか～

下関市総合政策部国際課  
(釜山広域市派遣職員)  
久保 伸子

韓国で驚くことの一つに、食事のときの量の多さがあります。メイン料理に付属して出てくるおかずは、種類の多さもさることながら、いくらでも追加可能なので嬉しくなります。ビアホールやバーでお酒と共に注文する料理も量が大変多く、大勢でワイワイ飲むときはなかなか良いものです。ただ二人でお洒落に楽しみたいときなどは、大皿に溢れんばかりの同じつまみではなく、少しずつ数種類のおかずが乗った小さな皿があれば…と思うこともあります。

「大は小を兼ねる」という考え方が大勢を占めるのか、韓国では何でも多め、大きめが好みようです。大型スーパーマーケットに行けば、歯磨きはすべて3個～5個のセット売り、果物は箱売り、洗剤の箱も菓子袋もすべて大型。一山なんぼの果物は「半分ください」「2個だけほしいのですが」と交渉せねばならず、洗剤や菓子など量が少しだけ欲しい場合小さな箱や袋は…なかなか見つからないのです。

### ■大型車はステイタス

車もしかり。韓国の街中でもかわいい色の小型車を見かけることが多くなったとはいえ、セダン型が主流なのは間違いありません。しかも大型化傾向が激しいようです。

産業研究院が10月26日発表した「国内乗用車消費構造と改善方案」報告書によると、1995年は2.7%に止まっていた韓国の大型乗用車（セダン型・排気量2000CC以上）の消費比重が、2000年9.3%、2002年14.0%、2004年17.0%、今年7月には24.3%などと、伸び続けているそうです。レジャー型車両（RV）まで含めると、2006年7月までの大型車消費比重は、30.5%にまで上るとか。この比重は、フランス（10.4%）、イタリア（9.7%）、英国（12.8%）、日本（20.5%）などの主要自動車生産国を上回るだけでなく、米国に次いで世界第2位の高い水準だそうです。

一方、軽小型乗用車（1500CC以下）の消費比重は、11.5%に止まり、主要自動車生産国中最も低かったとのこと。日本の軽小型乗用車の消費比重が61.2%、イタリアと英国は50%超、フランスとドイツも23～38%の水準にあるそうですから、韓国の軽小型乗用車比率の低さが目立ちます。

高価格にもかかわらず大型乗用車の消費が伸びていることに対し、産業研究院は、車両の大きさを地位や身分と同一視する社会認識、所得の両極化による軽小型車需要の減少および大型車需要の増加、小型車に対する税制優遇措置の減少などで大型車を主とする消費構造が発生したと分析しています。

韓国輸入自動車協会によると、2005年の輸入車登録台数のうち、日本の高級車・レクサスの販売台数がドイツのBMWを上回り1位だったとか。しかも価格が高い最上級モデルでフルオプションの物から先に売れているとのこと。韓国では人気がない印象の日本車も、高級車に限っては富裕層の高級車志向と旺盛な購買意欲に支えられ順調に輸出台数を伸ばしている、といえるようです。



黒・白のセダンが主流の韓国でも、大きさ、色とも多様な車を見かけるようになった。  
赤いスポーツカー、ゴールドの小型車、濃紺メタリックのセダンなどが駐車場に並ぶ。

原油高の昨今、小型車の方がうんと経済的です。しかも小回りが利いて、狭い道でも楽に離合できるのでは、と思うのですが…。もともと、小型車がタクシー、バスをはじめ大きな車から実際にあおられる場合が多いのは否めません。世界一運転が荒いといわれる釜山では特に、運転が上手ではない女性ドライバーが文句を言われている場面や、互いに道を譲らずぶつかりそうになった運転手同士が車を降りて言い合っている光景をよく目にします。

韓国で大型車人気が高いのは、ステイタスもさることながら、ぶつかったときに小型車よりは安全だから…という理由があるのかもしれない。